



みやかわ

会津美里町立宮川小学校
令和4年度学校だよりNo.40
令和5年2月8日

会津美里町立宮川小学校長 星 潔

チャレンジ「メディアコントロール」！

1学期と2学期に保護者の皆様のご協力を得て実施した「学校評価アンケート」ですが、「時間を決めてテレビを見たりゲームをしたりしている」が1番得点の低い評価項目でした。「テレビ・ゲームの時間を2時間以内とし、家庭学習・読書・自己向上のための時間に取り組みます」を第3学期の最重要項目として、現在取り組んでいるところです。

先日行った全校朝の会で、チャレンジ「メディアコントロール」をテーマに子どもたちに話をしました。話の概要は以下のとおりです。

メディアに触れる時間が長くなると・・・

① 体への影響があること

- ・ブルーライトにより網膜細胞を痛めること
- ・ブルーライトは視力に影響があること
- ・夜なのに昼間と勘違いすること
- ・睡眠がとれなくなる→睡眠中に脳から体にホルモン(体を大きくする、体を整える)が出るがそのホルモンの不足で「昼間に眠い」「暴れる・キレル」「落ち込む」などの症状が出ること

② 学習に影響があること

- ・スマートフォン、タブレットなどを長時間使うと脳から学んだものがなくなる
- ・夜更かしをすると授業で学習した内容が頭に残らないこと

③ メディアに関するルールを確認してほしいこと

- ・Twitter、Instagram、TikTok、Facebook は規約で、利用できるのは13歳以上に決められていること
- ・YouTube は Google アカウントの作成は13歳以上と決められており、使用する時には保護者の許可が必要なこと。13歳未満には YouTube kids が推奨されていること。
- ・ゲーム、オンラインゲームにも0歳以上推奨など、年齢が決められているものがあること

④ だからみなさんにやってほしいことは

- ・「ルールを決めよう」そして「ルールを守ろう」ということ
- ・メディアをコントロールして生まれた時間を読書や自主学習、そして自分を成長させるための時間(将来の夢に関わることなど→例えばスポーツ、料理、将棋、絵を描くなど)、家族との団らんに等に使ってほしいこと。

メディアは絶対に必要なものですが、触れすぎは様々な影響が出てしまいます。私たち教職員も子どもたちの輝く未来のために「チャレンジメディアコントロール」を、保護者の皆様と連携しながら、一人一人に意識させたいと強く考えています。その1つのきっかけになればと思い、本校では来週「チャレンジメディアコントロール」カードを配付し、メディアコントロールに取り組んでいきます。お忙しい中ではありますが、「保護者の方から」の記入欄もございますので、ぜひご協力いただけますようお願いいたします。なおカードは10日(金)に配付いたします。提出日は20日(月)となります。よろしくお願いいたします。

明日は「スキー教室」です！

明日9日（木）は3年生以上が猪苗代スキー場において「スキー教室」を行います。子ども達は校庭での体育学習でスキーを練習してきました。明日はいよいよスキー場です。明日がスキー場デビューの子ども達もいると思います。各学年だより等を再確認し、準備を万端にして、睡眠をしっかりと取り登校させてください。けがに気を付けながらスキー学習をしてまいります。



6年生が3年生にスキーを教えてくれました。さすが「チーム宮川」の顔です！すばらしい！！

会津美里町算数・数学授業研究会！

昨年度、本校で授業をしてくださった、筑波大学附属小学校副校長の夏坂哲志先生を再び講師にお迎えし、5年生において、町算数・数学授業研究会を実施しました。5年生の子どもたちは昨年も夏坂先生に授業を行っていただきました。町の小中学校のたくさんの先生方に参観されている中での授業でしたが、5年生は意欲的に、集中して学習に取り組みました。授業後には夏坂先生より講話もいただきました。本校はもちろん町全体の授業力向上に役立てて参ります。夏坂先生、ありがとうございました。



校長のひとりごと

明日は3年生以上のスキー教室です。保護者の皆様の中にはお子様と今シーズンスキーに出かけられた方もいらっしゃると思います。星家のスキーデビューは3人とも小学校入学前でした。板の先につけて、板の先が離れるのを防ぐ補助具をスキーに付けて、なおかつベルトを子どもの体につけて、後ろから私がひもを持ちスピードを調整したり行き先をコントロールしたりする補助具を付けて練習しました。体に動きを覚えさせるには最適で、なお且つ子ども達には、自分一人で滑っているような感覚が得られます。慣れてくるとひもを離してみました。最初はコントロールできず雪につっこむこともありました。泣いて怒ることもありました。しかし大人とは違い、子どもが慣れるのは早く、いつの間にか補助具を卒業することができました。子ども達に最初は簡単にできるものからスタートさせ、時には負荷をかけたり、また簡単にできるものに戻してみたり、そして一人でチャレンジさせていき、親は見守る。これは私が我が家のスキー練習から学んだことです。他のことでも実践しようと思いましたが、時間のせいにするなどしてうまくいかなかったことが多かったことが反省点です。何かお子様が挑戦する際に参考にいただければうれしいです。